放課後の子どもたちの居場所づくり（1）
—幼稚園の「預かり保育」について考える—
講川 滋大
（日本女子大学 家政学部児童学科）

【問題】
平成19（2007）年度より国は「放課後子どもプラン」を実施している。これはそれまで文部科学省が行っていた「地域子ども教室事業」と厚生労働省が行っていた「放課後児童健全育成事業」（いわゆる学童保育など）を一体的あるいは連携をして推進していくという大規模な計画である。このような計画が実施されたのは、ひとえに放課後の子どもたちの安全な場の確保という意味合いが強い。ところで放課後の子どもの居場所をどう確保するかという問題は学童期だけに限らず、幼児期にも重要な課題である。平成20（2008）年に改訂された幼稚園教育要領では、これまで実施されてきた預かり保育に対し具体的な留意事項を示すというのが1つのポイントとなっている。そこで本稿では、幼稚園に対する質問紙調査をもとに、預かり保育の実施やその内容の効果について園側がどのように捉えているかの考察をしていくこととする。

【結果】
100箇所の幼稚園に郵送配布した質問紙は、59園から回答を得ることができた（回収率59.0％）。回収できたデータのうち預かり保育を実施している園は41園（69.5％）であり、これは文部科学省が平成17年に発表した69.9％という数値とほぼ等しい値であった。

①預かり保育の実施時間
預かり保育の実施時間で公立と私立に分けフィッシャーの直接確率計算を行った結果、私立園の方が長時間行っているという点において有意差が出た（両側検定：p=0.02）。

<table>
<thead>
<tr>
<th>時間</th>
<th>公立</th>
<th>私立</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>2時間未満</td>
<td>9</td>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>2時間以上</td>
<td>5</td>
<td>20</td>
</tr>
</tbody>
</table>

②預かり保育のマイナス面
次に預かり保育を行うまでのマイナス面について尋ねた項目について結果を示す。質問紙ではプラス面とマイナス面について、それぞれ選択肢から複数回答可で選ぶようにしている。マイナス面の選択肢は「疲れやすくなる」「けがの増加」「情緒が不安定になる」「さびしい気持ちをもつ」「親子関係の希薄化」の5つであった。Fig.1は公立と私立に分けた各項目の結果を示したものである。

直接確率計算の結果、「寂しさを感じる」という項目に関して有意傾向が示されたのみであった（両側検定：p=.66）。

【考察】
私立幼稚園の方が公立園よりも長時間預かり保育を行っていたが、その結果が預かり保育に対する評価とつながっていると考えられる。子育て支援の一貫として長時間の預かり保育を実施しているものの、その保護者との接触時間が短くなるため園としては一方で子どもが寂しい思いをするのではないかという評価をしているようだ。なお統計的には有意ではなかったが「疲れやすくなる」という項目も回答数が多く、こちらも預かりの実施時間と関係した結果であると考えられる。
公立幼稚園に関しては、預かり保育を毎日行っているとは限らず、回数は少ないもののイベント的な意味合いで行っている園もあり、そういったところでは1回の参加者も多く、子どもにとっては楽しい経験となっているようだ。だがこのようなイベント形式の預かり保育では、子どもの生活リズムを考えた場合に毎日施行することは難しいであろう。

【参考資料】
文部科学省HP「預かり保育実施状況」（平成17年6月）